

学生の携帯通信機器の利用に関する予備調査

池 村 努

キーワード：

携帯電話、利用率、利用目的、学生

1. はじめに

外出先からでも連絡を取るための手段として発展してきた移動体通信は、1979年に東京23区内でサービスが開始¹された当初、本体部分は小型の鞆ほどの体積を持っていた。持ち運ぶことは現実的ではなく、主に自動車電話としてのサービス開始であった。その後電子機器の小型化に加え、小型軽量の充電電池の開発により飛躍的に体積が小さくなり、サービス開始時には7キログラムもあった重量が、現在では80グラム以下と、十分の一近くにまで軽量化が進んでいる。維持・通信費については、補償金が200,000円、基本使用料が月々30,000円、通話料が6.5秒/10円であった。その後NTTの独占状態が崩れ、1994年にレンタル制から購入制に切り替わったこともあって保証金がなくなり、契約条件にも拠るが、基本使用料2,600円、1分40～100円²と、かなりの低価格化が進んだ。この低価格化との関連は証明されていないが、10代から20代の利用者の増加傾向が見られる³ということが報告されている。そこで本学の構成年齢層である18歳から20代前半の学生について携帯通信機器の利用率の変化と位置付け、利用目的に関する調査を数年次にわたって行うことにした。

まず本学教養学科1年生のうち、「情報科学」の授業を履修している学生を対象にアンケートを行い、サンプルデータを取得した。そしてそのサンプルデータをもとに、質問項目について反省点や、問題点についての考察を加えた後、質問項目について修正を加えた後、次年度以降のデータ取得に反映することにした。

2. 調査方法

対象：本学に於いて「情報科学」に関する基礎科目（選択・半期）を履修する教養学科1年、31名（女性）を対象にアンケート調査を実施した。

¹ 携帯電話の歴史

<http://www.interq.or.jp/blue/rhf333/K-HIST.htm>

² J-Phone スーパーローコールプラン（2001年11月現在）

<http://www.hokuriku.j-phone-west.com/hokuriku/ryou/life.html>

³ NRI野村総合研究所『情報通信利用者動向の調査』（携帯電話編）2000年10月

<http://www.nri.co.jp/>

調査時期：2001年次前期最終講義時

質問項目：

情報通信機器についてのアンケート

1. あなたは携帯型情報通信機器（携帯電話など）を持っていますか。
 1. 持っている → 2へ
 - 持っている → 6へ

2. 1で持っていると答えた方に質問します。持っていないと答えた方は6へ進んで下さい。それはどのような用途が主ですか。（複数回答可）
 1. 電話で話す
 2. メールのやり取りをする
 3. パソコンにつないでデータ通信をする
 4. インターネットに接続してホームページの閲覧をする
 5. ゲームをする
 6. その他（ ）

3. あなたの生活の中で、携帯型情報通信機器（携帯電話など）が占める割合はどれですか。
 1. 生活のすべて。無いと生活できない
 2. あると便利。何かきっかけがあるとつい使ってしまう。
 3. 連絡を取り合う程度に使っている。
 4. 時々使うけれど、普段はあまり意識しない
 5. 必要無い。仕方が無く持っている。

4. あなたの携帯型情報通信機器（携帯電話など）にかける月ごとの費用はどれくらいですか。
 1. 5000円未満
 2. 5000～1万円
 3. 1万円～1万5千円
 4. 1万5千円～2万円
 5. 2万円～3万円
 6. 3万円以上

学生の携帯通信機器の利用に関する予備調査

5. あなたは、公共の場所での携帯電話のマナーに気を付けていますか。

例：バス・電車の中や、病院内では電源を切る 等

1. 気を付けている
2. 気を付けているほうだと思う
3. 時々気を付ける
4. 気を付けた事などない

6. 1の質問で持っていないと答えた方に質問します。

あなたが携帯型情報通信機器（携帯電話など）を持っていない理由は次のうちどれに当てはまりますか。（複数回答可）

1. ライフスタイルに合わない
2. 外出先で連絡を取りあう必要が無い
3. 経済的な理由
4. 持ち歩く事がいや
5. 以前は持っていたがやめた
6. その他（ ）

7. 「携帯電話を持っていれば良かった」と思った事はありますか。

1. ある
2. ない

8. 「携帯電話を持っていれば良かった」と思った事はある人に質問します。

それはどんなときですか。

1. 外出先で突然予定が変更になり連絡を取りたくなった
2. 緊急事態が起きた（事故など）
3. なんとなく
4. その他（ ）

以上、ありがとうございました。

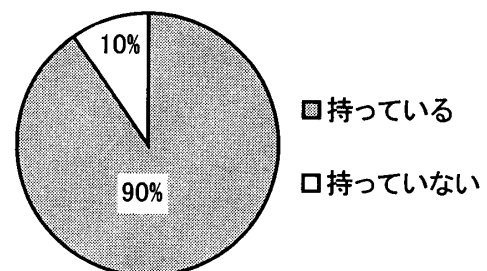


図1 携帯電話所有率調査

3. 結果と考察

以下に、設問内容と結果、そして考察をまとめる。

1. あなたは携帯型情報通信機器（携帯電話など）を持っていますか。

31名中、90%に相当する28名の学生が携帯電話を所有していた（図1）。母数が少ないため、参考程度にしかならないが、野村総合研究所調べの『情報通信利用者動向の調査』（携帯電話編）による10代女性の約78.1%、20代女性の83.2%という結果と較べると、若干多目の結果になっている。この結果はさらに調査対象を増やすことで、より調査結果に近づくのではないかと思う。

2. それはどのような用途が主ですか。（複数回答可）

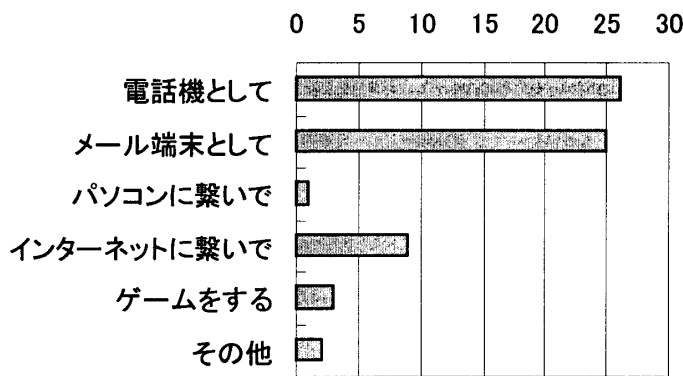


図2 携帯電話の主な用途

電話機としての利用が一番多いのは当然の結果として、メール端末としての利用もほぼ同数の結果が出た（図2）。これは携帯端末の利用形態が現在これらの二つに集約していることを示していると思われる。次いで多かったのがインターネットに繋ぐ利用方法である。NTT DoCoMo の i-mode、J-PHONE の J-SKY、au の EZweb など、携帯電話各社がそれぞれの加入者向けに独自のイ

ンターネットサービスを展開している。アンケートに対する回答では9名と言う利用者数であったが、各社のサービスを利用することを、インターネットに接続しているとは気付かずに利用している可能性が考えられる。そこで、次回調査実施時には明確に各社サービスも記してアンケートを実施することにしたい。パソコンに繋いで利用している学生も1名いた。データ転送速度の違い⁴から、PHS を使用しているであろうと思われるが、設問の不備から PHS 使用者か、携帯電話使用者かは判明しなかった。これも反省点として次回調査時には対応したい。その他の使用法

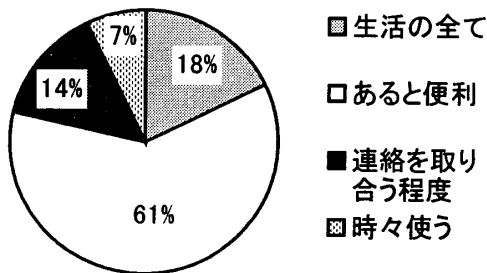


図3 生活の中に占める割合

としてゲームのほかに「灯りとして」「時計として」と言う回答があった。灯りと言うのは液晶画面に使われているバックライトをさしてのことと思われる。時計の機能は、待ち受け画面の中に表示されている時計であろう。

⁴ PHS : 64kbps 携帯電話 : 9.6kbps (bps : bit per second 一秒間に転送できるデータの量)

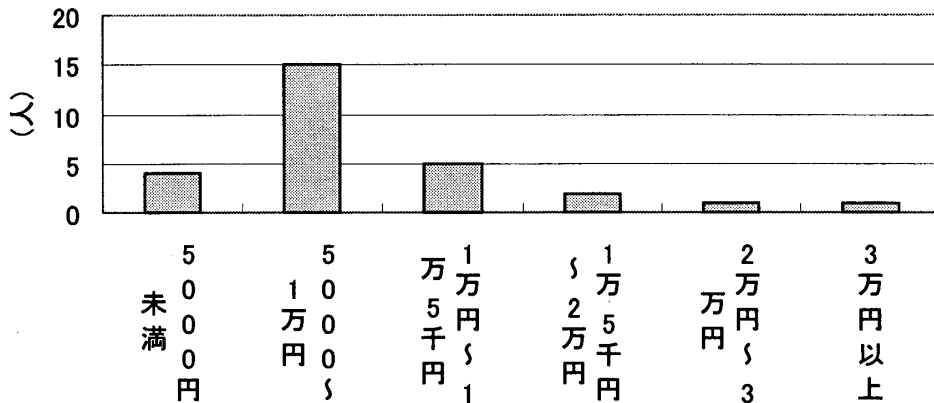
学生の携帯通信機器の利用に関する予備調査

3. あなたの生活の中で、携帯型情報通信機器（携帯電話など）が占める割合はどれですか。

この設問で「生活の全て」であると回答した学生が2割弱いた（図3）。実際学生の中には常にメールの着信を気にしている者もいる。メールだけを使用しているわけではないだろうが、携帯電話が生活の全てと言い切れるのも今の世代ゆえだろうか。反対に「時々使う」、「連絡を取り合う程度」が合わせて2割強だった。ただ、「生活の全て」、「あると便利」は生活における位置付けなのに対し、「連絡を取り合う程度」、「時々使う」は利用頻度を聞いているので解答欄を再考する必要がある。

4. あなたの携帯型情報通信機器（携帯電話など）にかける月ごとの費用はどれくらいですか。

図4 月ごとの通話料



回答者の半数が5,000円から1万円の範囲であった（図4）。その中で、高額な通話料を支払っている学生も存在する。次回には「通話料金を支払っているのが誰か」と、「主な通話相手」についても調査を行ってみたいと思う。

5. あなたは、公共の場所での携帯電話のマナーに気を付けていますか。

携帯電話が普及するにつれ、社会的に問題になってきた通話マナーであるが、今回の調査結果では比較的多くの学生が「気を付けている」という結果が出た（図5）。携帯電話にメール機能が付加されていることもあり、バスや電車の中で、大声で話すといった光景を目にすることも少なくなってきた。

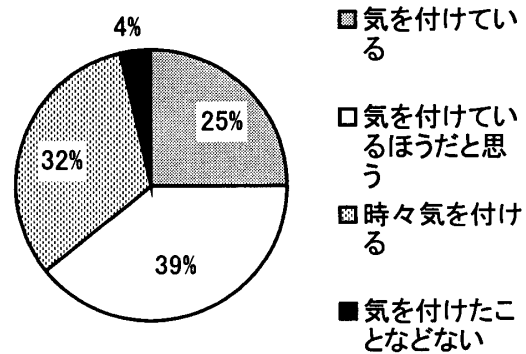


図5 携帯電話のマナーについて

6. あなたが携帯型情報通信機器（携帯電話など）を持たない理由は次のうちどれに当てはまりますか。（複数回答可）

この設問から携帯電話を持っていない学生に対して行ったが、「ライフスタイルに合わない」とする回答が1名。「外出先で連絡を取り合う必要が無い」とする回答が2名。「経済的な理由」が1名。「持ち歩くことがいや」とする回答が1名だった。「ライフスタイル」や、「必要が無い」といった、ある意味ポリシーを持って携帯電話を持たない者がいることも興味深い。また、「経済的な理由」は設問4とも関係してきそうなので、関連させて掘り下げてみたい。回答の5番目に「以前は持っていたがやめた」という回答を用意したが、「やめた理由」という設問を追加し、別の設問としたほうがより回答の傾向がわかりやすくなるように思われる。

7. 「携帯電話を持っていれば良かった」と思った事はありますか。

8. それはどんなときですか。

7の設問に対し、思ったことが「ある」と答えたのは2名だった。そしてそのどちらも8の設問で「外出先で突然予定が変更になったため」と回答している。携帯電話のもっとも得意とするシチュエーションであろう。今回は設問を設けなかったが、携帯電話を所有している場合に「持っていて良かった」と思った場面について問うのも良いのではなかろうか。

4. まとめ

今回の結果から携帯電話の位置付けは「あると便利」という所までわかった。次回以降調査回数を増やしていくことで利用率の変化を詳しく調べていきたいと思う。また、メールの利用割合が高かったことから、メールの利用についてもより深く調査を進めてみたいと思う。

5. 参考文献

- 1) 喜多 祥昭 他 著、最新 移動体通信がわかる、技術評論社、2000
- 2) 竹内伸宜、学生の携帯通信機器の利用に関する調査、神戸海星女子学院大学・短期大学研究紀要 第38号、1999